長門大津地区で第10全共を目指した交配が開始される

長門農林事務所畜産部
平成22年1月28日

長崎県で開催予定の、第10回全国和牛共進会（全共）に出品する牛を生産するための人工授精（交配）が、１月中旬から長門大津地区でも始まりました。

全共には、繁殖雌牛で競う「種牛の部」と、肥育牛で競う「肉牛の部」があり、今回の取り組みは、「肉牛の部」に山口県代表として出品する５頭の枠を目指して、1月中旬から２月中旬までに交配が行なわれ、10月下旬に出品候補牛が生まれる予定です。

また、交配に用いられる種雄牛は、農林技術センター畜産技術部にて繋養されている若い種雄牛３頭が選ばれています。

長門大津地区の「肉牛の部」の交配予定頭数は、約100頭と県内でも一番多く、繁殖農家や家畜人工授精師など関係者の関心の高さが伺えます。

長門農林事務所は、関係機関と連携して、管内からより多くの牛が出品できるよう支援していきます。

授精の様子